

米CPI、やや鈍化も高水準継続

ポイント① CPI、4月はやや鈍化も高水準

5月11日に発表された4月の米CPI（消費者物価指数）は、前年同月比で8.3%の上昇と、8か月ぶりの鈍化となりましたが、市場予想を上回る高水準の伸びとなりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIでは前年同月比で6.2%の上昇と、前月より鈍化したものの、依然として高水準で、米国のインフレ圧力は強い状況が続いています。

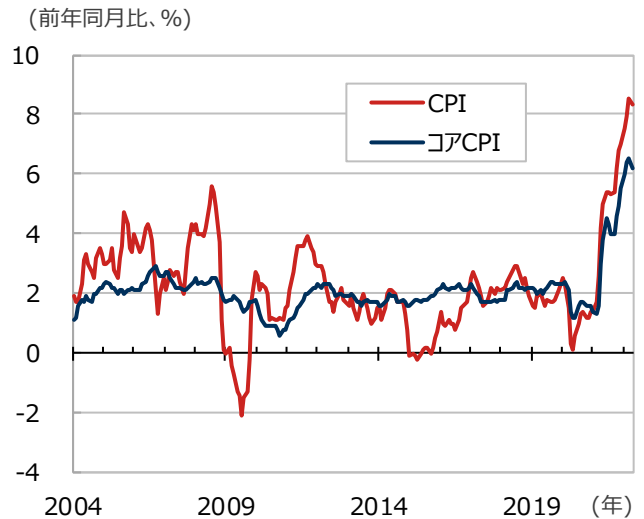
ポイント② サービス価格がCPI上昇をけん引

項目別では、ガソリン価格は前月比6.1%下落と、3月の同18.3%上昇から大きく減速した一方、サービス価格上昇による影響が拡大しています。CPI全体の約1/4を占める帰属家賃は前月比0.5%上昇と、1年前の同0.2%上昇と比べてじわじわ拡大しているほか、航空運賃は前月比18.6%上昇と行動規制解除の影響がインフレに現れています。今後、利上げの影響による住宅ローン金利上昇で住宅購入から賃貸へ切り替える人が増えることで、家賃の高止まりが予想されるほか、レジャーシーズン到来による旅行需要増が、インフレを高止まりさせることが懸念されます。

ポイント③ 米国株が大幅下落

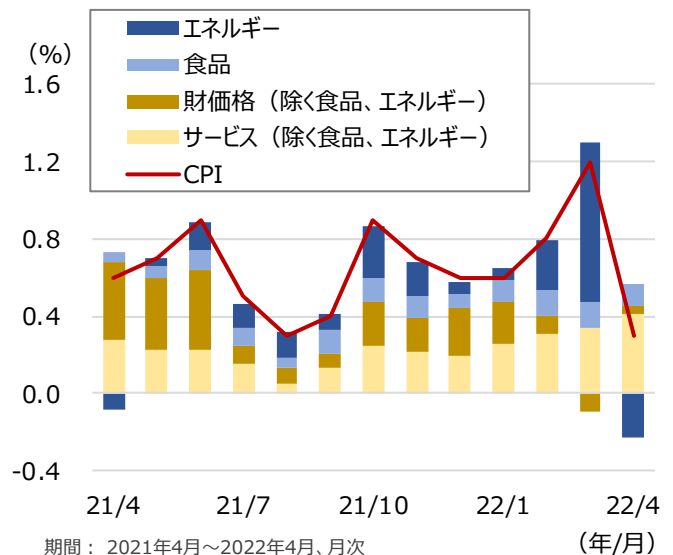
4月のCPIを受け、発表直後は米国10年債利回りが一時急上昇したものの、その後急速に低下し前日を下回る結果（債券価格は上昇）となりました。一方、米国株は大きく売られました。市場の関心は景気減速への懸念に移り、FRB（米連邦準備制度理事会）が景気を犠牲にしてでもインフレを抑え込もうとしているとの見方が強まったと思われます。

米消費者物価指数の推移



期間：2004年1月～2022年4月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米消費者物価指数の項目別寄与度の推移 (前月比)



期間：2021年4月～2022年4月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 5月13日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (5月速報)
- 5月17日 米小売売上高 (4月)、米鉱工業生産指数 (4月)